

第3回高知県海岸保全施設技術検討会

— 議事概要 —

開催概要:

日 時： 2025年（令和7年）12月24日 14:00～16:00

場 所： 高知県民文化ホール 第6多目的室

出席名簿:

委員長：	高知工科大学 名誉教授	磯部 雅彦
委員：	高知工科大学 教授	佐藤 慎司
委員：	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 海岸研究室 室長	柴田 亮
委員：	国土交通省 国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 港湾・沿岸防災研究室 室長 代理 主任研究官	(本多 和彦) 千田 優
関係機関：	国土交通省 四国地方整備局 (オプザーバー) 高知河川国土事務所 所長	渡邊 国広
関係機関：	国土交通省 四国地方整備局 (オプザーバー) 高知港湾・空港整備事務所 所長	野本 啓介

※敬称略

配布資料:

- ① 議事次第
- ② 資料1：前回の検討会の指摘と対応
- ③ 資料2：沿岸市町村へのアンケート調査
- ④ 資料3：検討会のとりまとめ
- ⑤ 資料4：今後のスケジュール

開催状況:



写真 1 第3回検討会の開催状況

議事概要:

資料1: 前回の検討会の指摘と対応

資料1について意見等はなかった。

資料2: 沿岸市町村へのアンケート調査

発言者	内容
磯部委員長 柴田委員	高知県ではこれまで多くの避難タワーを整備していることなどについて、海岸保全基本計画に記載するなどして、広く周知してはどうか。
事務局	頂いたご意見を踏まえ、海岸保全基本計画の変更を行うとともに、広く周知されるような広報活動や情報発信にも努めていきたい。
千田代理 渡邊委員	避難場所の整備等に関する地域住民からの要望について、より詳細な内容を把握し、今後の対応に活かしてほしい。
事務局	今後、市町村等とも連携し対応していく。

資料3: 検討会のとりまとめ

発言者	内容
佐藤委員	海部灘および豊後水道東は隣県と沿岸を共有しているが、今回の海岸保全基本計画の変更にあたって、情報共有や調整はどうするのか。
事務局	各県で検討は実施しているが、情報共有や調整を行って、相互に齟齬がないかなどを確認しながら進めている。
柴田委員	侵食の防護水準について、手遅れにならないよという表現があるが、何が手遅れにならないのか分かりづらいため、修正したほうがよい。
佐藤委員	これまでは侵食後に対応を実施してきたが、今後は侵食される前に対応するということを明確に記載したほうがより県民の方々に伝わりやすいように思う。
事務局	頂いたご意見を踏まえ、侵食の防護水準の表現を修正する。
渡邊委員	段階的な防護水準について、2040年にピークを迎えるのは気温であることが分かるように、表現を修正したほうがよい。
事務局	頂いたご意見を踏まえ、段階的な防護水準の表現を修正する。
佐藤委員	p.45の将来の必要天端高について、全ての箇所ですべての堤防高が不足するという結果になっているが、この結果を踏まえ、海岸保全基本計画ではどのように記載していくのか。
事務局	今回の結果は試算であり、今後も引き続き詳細な検討を行っていく必要があると考えている。この結果は、海岸保全基本計画の巻末資料に参考値として掲載する方針である。
磯部委員長	p.40～44の結果の示し方について、誤解を与えないよう、港湾・漁港で示されている高潮に対する必要天端高は港内の数値であることを記載したほうがよい。

事務局	頂いたご意見を踏まえ、結果の示し方を修正する。
千田代理	p.7 の気候変動による津波への影響について、海面上昇により津波の高さが高くなるという表現は適切ではないため、修正したほうがよい。
佐藤委員	津波高を津波水位に修正すればよいのではないかと思います。
事務局	頂いたご意見を踏まえ、津波に関する表現を修正する。
渡邊委員	河川管理や河川整備計画を考える際に河口部の水位は必要な情報となるため、河川と海岸で齟齬が生じないように、本検討会でとりまとめた防護水準について、河川管理者にも情報を共有して行ってほしい。
事務局	河川管理者に情報を共有する。
磯部委員長	海岸保全基本計画の変更の際は、防護面の問題が大きいことから、防護を中心に議論することが多い状況にある。そのため、環境や利用面について議論する時間が限られてしまうが、それらを考えることで海岸がより良くなると思う。今後、積極的に考えていければよいと思う。

資料4： 今後のスケジュール

資料4について意見等はなかった。